

令和元年度の減災対策の取組結果の報告

国土交通省の取組状況

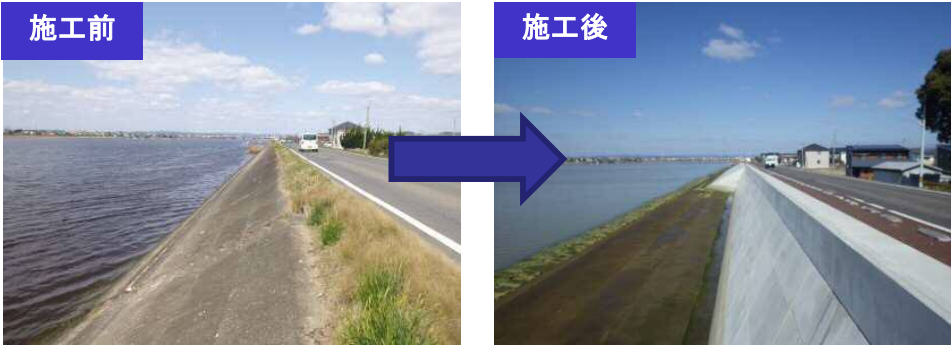
洪水氾濫を未然に防ぐ対策

■ 流下能力対策

対策箇所

- ・堤防高が低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所
（上下流バランスを確保しながら実施）

計画：2.65km (R2.3.31現在)			計画：2.61km (R2.3.31現在)			計画：11.78km (R2.3.31現在)		
水系	年度	実施状況	水系	年度	実施状況	水系	年度	実施状況
吉井川水系	H30年度まで	0.65km（累計25%）	旭川水系	H30年度まで	0.50km（累計19%）	高梁川水系	H30年度まで	7.18km（累計61%）
	R元年度	1.35km（累計75%）		R元年度	—		R元年度	2.11km（累計79%）
見直しにより対策不要となった区間を含む			見直しにより対策不要となった区間を含む			見直しにより対策不要となった区間を含む		



旭川水系



高梁川水系

洪水氾濫を未然に防ぐ対策

■パイピング対策

対策箇所

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊する恐れのある箇所
- ・旧河道跡等、パイピングにより堤防が崩壊する恐れのある箇所

計画：2.98km (H31.3.31現在)

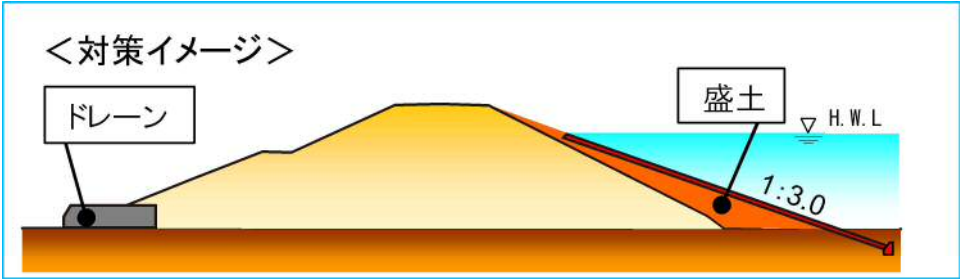
水系	年度	実施状況
旭川水系	H30年度まで	2.82km (累計95%)
	R元年度	0.11km (累計97%)

見直しにより対策不要となった区間を含む

■浸透対策

対策箇所

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊する恐れのある箇所



計画：2.63km (H30.3.31現在)

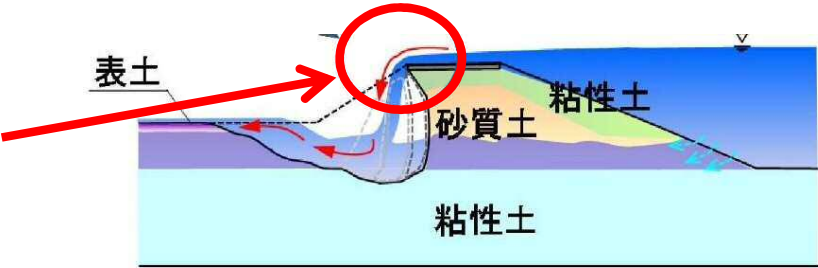
水系	年度	実施状況
高梁川水系	H30年度まで	1.00km (累計38%)
	R元年度	0.78km (累計68%)

見直しにより対策不要となった区間を含む

洪水氾濫を未然に防ぐ対策

■天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



計画:2.60km(完) (H31.3.31現在)			計画:1.23km(完) (H31.3.31現在)			計画:0.69km(完) (H31.3.31現在)		
水系	年度	実施状況	水系	年度	実施状況	水系	年度	実施状況
吉井川水系	H28年度まで	2.60km (累計100%)	旭川水系	H28年度まで	1.23km (累計100%)	高梁川水系	H28年度まで	0.69km (累計100%)

見直しにより対策不要となった区間を含む

見直しにより対策不要となった区間を含む

見直しにより対策不要となった区間を含む



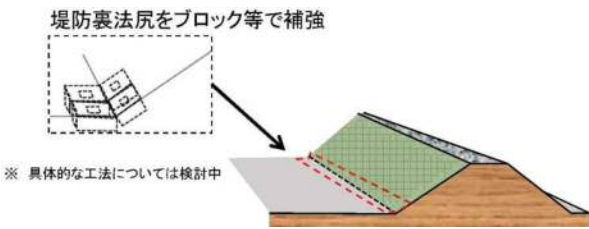
吉井川水系



高梁川水系

■堤防裏法尻の補強

裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



計画: 1.75km (H30.3.31現在)

水系	年度	実施状況
高梁川水系	H30年度まで	0.35km (累計20%)
	R元年度	—

見直しにより対策不要となった区間を含む



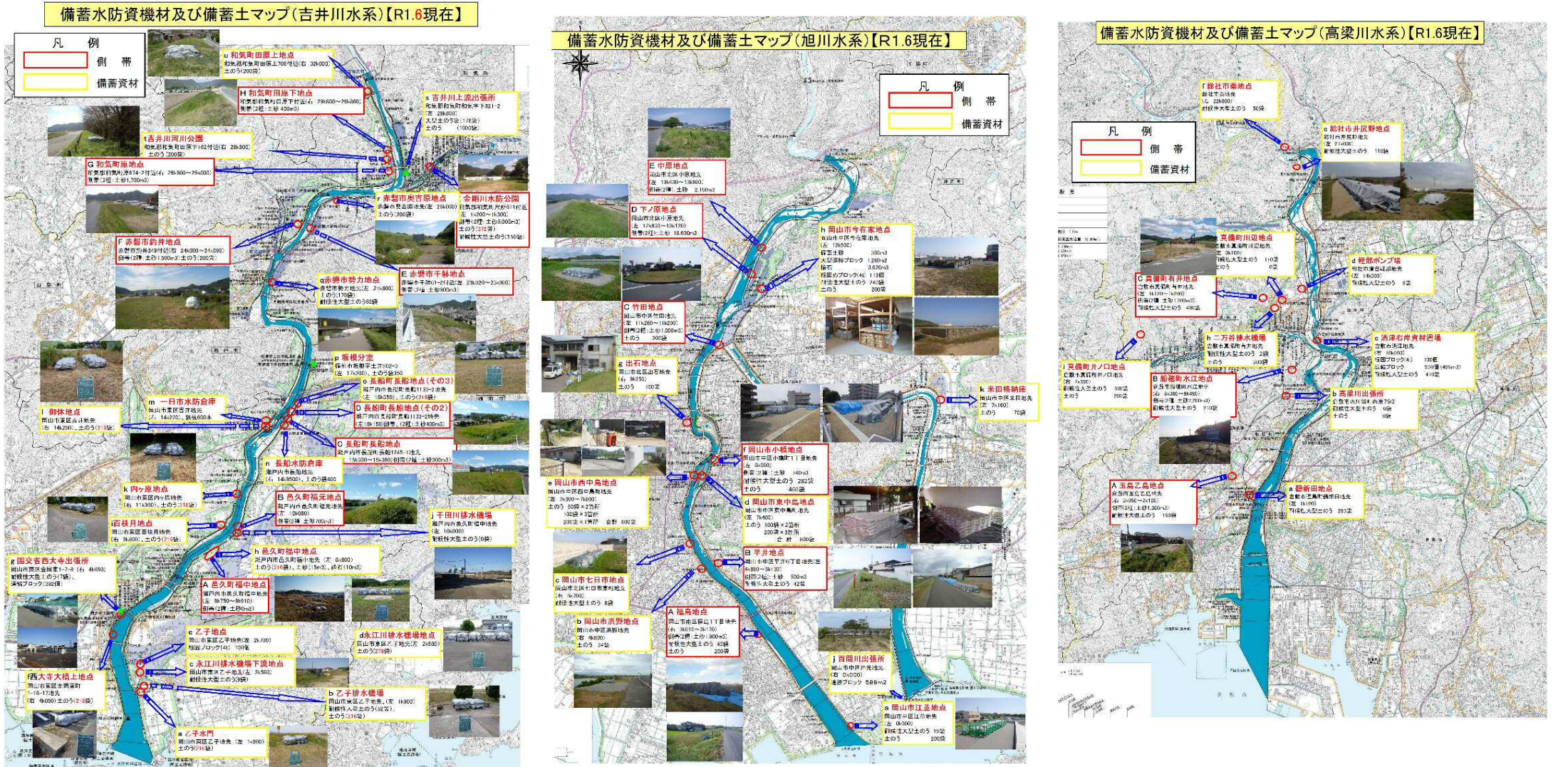
高梁川水系

危機管理型ハード対策の進捗状況

	吉井川水系	旭川水系	高梁川水系
流下能力対策	2.00km／2.65km(75%)	0.50km／2.61km(19%)	9.29km／11.78km(79%)
パイピング対策	—	2.88km／2.98km(97%)	—
浸透対策	—	—	1.78km／2.63km(68%)
堤防天端の保護	2.60km／2.60km(100%)	1.23km／1.23km(100%)	0.69km／0.69km(100%)
裏法尻の補強	—	—	0.35km／1.75km(20%)

避難活動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備

保有する水防資機材の状況を平素より管理し、必要に応じて補充するなど、緊急時における速やかな対応を図る。



■避難活動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備

保有する水防資機材の状況を平素より管理し、必要に応じて補充するなど、緊急時における速やかな対応を図る。

備蓄水防資機材及び備蓄土一覧表（R1.6現在）

備蓄水防資機材及び備蓄土一覧表(吉井川水系)

番号	保管場所	保管資料										保管場所		管理官		備考
		二書	上巻	中巻	下巻	別紙	目録	索引	スロコン	クレジット	ファイル	データベース	貸出	電算番号	関係外部口	

備蓄水防資機材及び備蓄土一覽表(旭川水系)

[illegible]

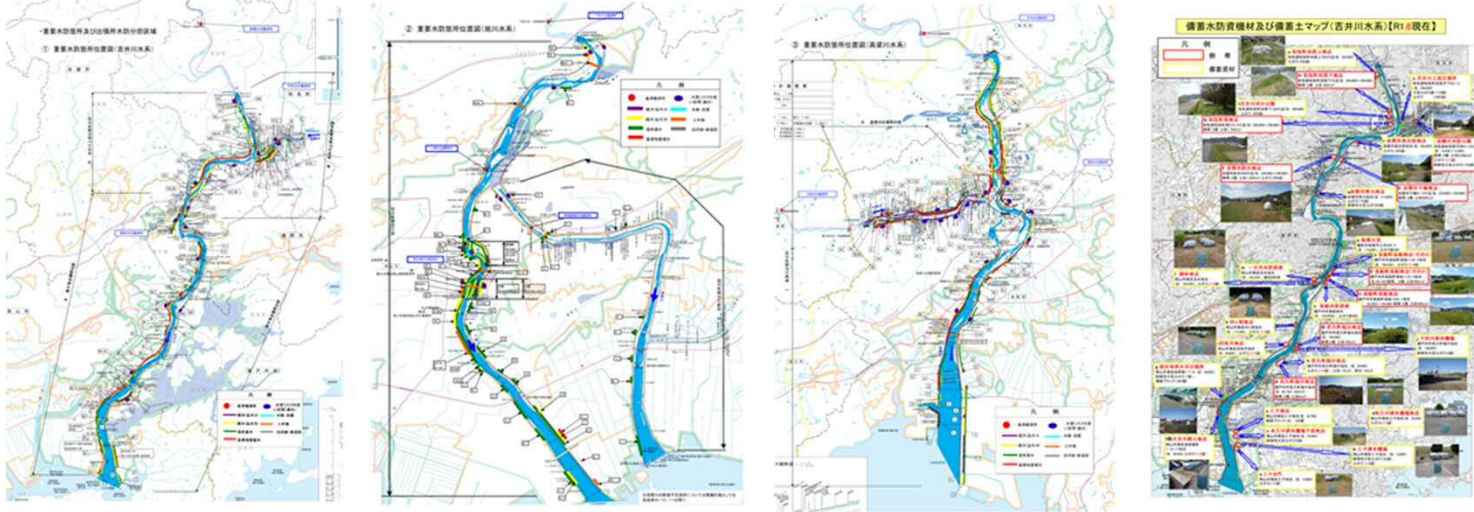
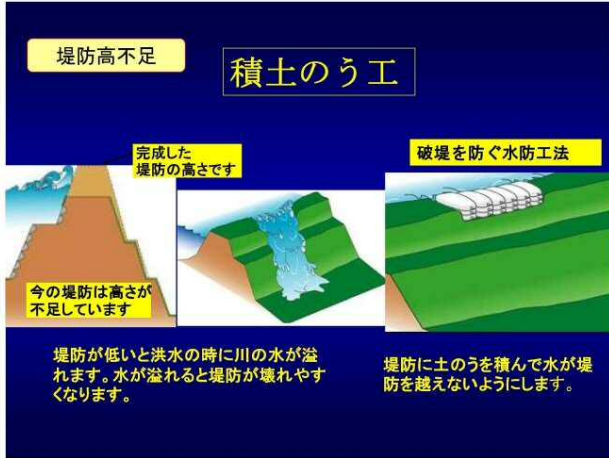
別紙-1

備蓄水防資機材及び備蓄土一覽表(高梁川水系)

番号	収容場所	11月現在 収容人数	収容人数										備考
			男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	男女別 収容人数	
1	豊前市立東山	288	100	50	23	700	76	10	—	豊前市立東山 300-1-2	豊前市立東山 300-1-2	004-09-111	
2	津島漁港跡	—	100	100	30	14	40	100	30	10	—	004-09-119	
3	津島漁港跡	—	100	100	42	15	0	100	50	42	—	004-09-119	
4	豊前市立山本東	—	0	0	0	0	140	0	0	0	—	004-08-111	
5	水品漁港跡	630	140	25	13	10	0	105	45	15	—	004-44-130	
6	佐伯市立東山	—	600	0	0	10	60	40	30	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-08-071	
7	津島漁港跡	400	107	120	10	6	170	37	35	14	—	004-02-010	
8	豊前市立東山	276	100	—	—	270	200	1	31	—	豊前市立東山 300-1-1	004-02-010	
9	豊前市立東山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10	松尾山	330	200	—	—	19	50	0	24	—	豊前市立東山 300-1-1	004-02-010	
11	井ノ口立	—	130	—	—	5	4	1	—	—	—	—	
12	豊前市立東山	630	600	—	—	12	50	10	2	—	豊前市立東山 300-1-1	004-02-010	
13	佐伯市立東山	420	—	—	—	17	100	10	17	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
14	豊前市立東山	630	600	—	—	11	200	40	58	15	—	004-02-010	
15	北山立	430	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
16	豊前市立東山	330	12	5	3	10	0	0	0	—	豊前市立東山 300-1-1	004-02-010	
17	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
18	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
19	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
20	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
21	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
22	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
23	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
24	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
25	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
26	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
27	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
28	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
29	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
30	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
31	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	
32	佐伯市立東山	450	140	2	5	200	10	0	0	—	佐伯市立東山 300-1-1	004-02-010	

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

- 出水期前に水防活動・水防体制の強化を図る目的として、水防団等を対象に重要水防箇所の周知及び水防に必要な情報の提供を行い、協力強化に努めるよう依頼した。



説明会の様子

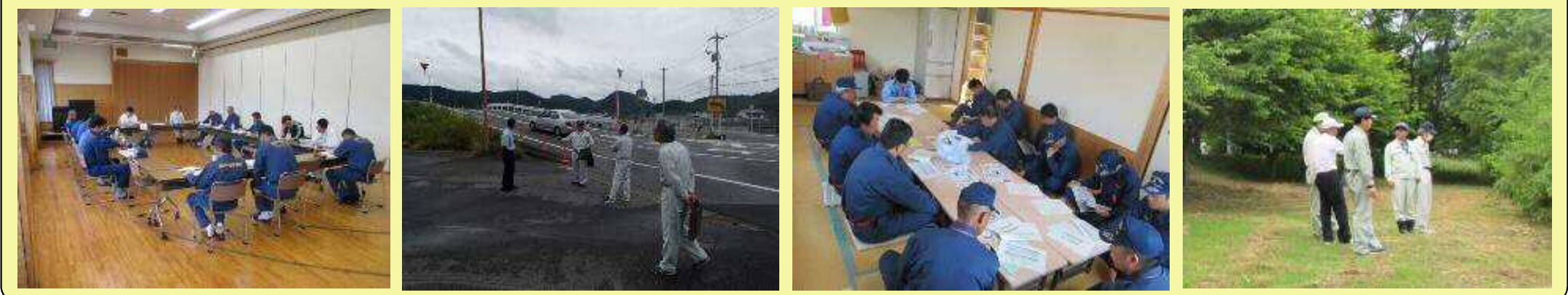


■水防団等が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検

- 出水期前に現地において重要水防箇所の確認を行い、増水時の水防活動を目的として、水防団等を対象に合同で共同巡視を実施した。



共同巡視の様子



■地域の建設業者による水防支援体制の検討・構築

令和元年度 災害応急対策活動等（測量・設計） 担当河川一覧表

令和元年5月16日 ～ 令和2年5月15日
会 社 名
(株) エイト日本技術開発
中電技術コンサルタント (株)
(株) ウエスコ
(株) 荒谷建設コンサルタント
日本インフラマネジメント (株)
西部技術コンサルタント (株)
(株) なんば技研
ダイホーコンサルタント (株)
(株) 山陽設計

令和元年度 災害応急対策活動等（写真撮影） 担当区域一覧表

令和元年5月16日 ～ 令和2年5月15日
会 社 名
(株) バスコ 岡山支店
中日本航空 (株)
(株) ウエスコ
(株) エイテック 中国支店
西部技術コンサルタント (株)
グレイコンサルタント (株)
(株) なんば技研
(株) 秋山測量設計

令和元年度 河川等災害応急対策活動等基本協定 担当区域一覧表
令和元年5月16日 ～ 令和2年5月15日

会 社 名
(株) 吉田組
大森建設工業 (株)
栄光テクノ (株)
(株) 元浜組
(株) 大本組
(株) 三幸工務店
蜂谷工業 (株)
(株) 荒木組
(株) 大都建設
(株) 竹内組
(株) 笹山工業
(株) 奥野組
(有) 佐山建設
中村建設 (株)
(株) カザケン
中央建設 (株)
(株) 藤原組
三宅建設 (株)
(株) 大森工務店
(株) 小田組
(株) 片山工務店
(株) 堀工務店
(株) ニシテクノ
(株) シンケン

令和元年度の災害応急対策活動については、大きな出水がなかったため、実績なしであった。

より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

■排水機場・樋門・水門等の情報共有を行い、 大規模水害を想定した排水計画を検討及び訓練の実施

災害対策機械訓練状況(旭川・吉井川水系訓練6月12日、高梁川水系訓練6月14日)



高梁川排水ポンプ車訓練(令和元年)



旭川照明車訓練(令和元年)



高梁川照明車訓練(令和元年)

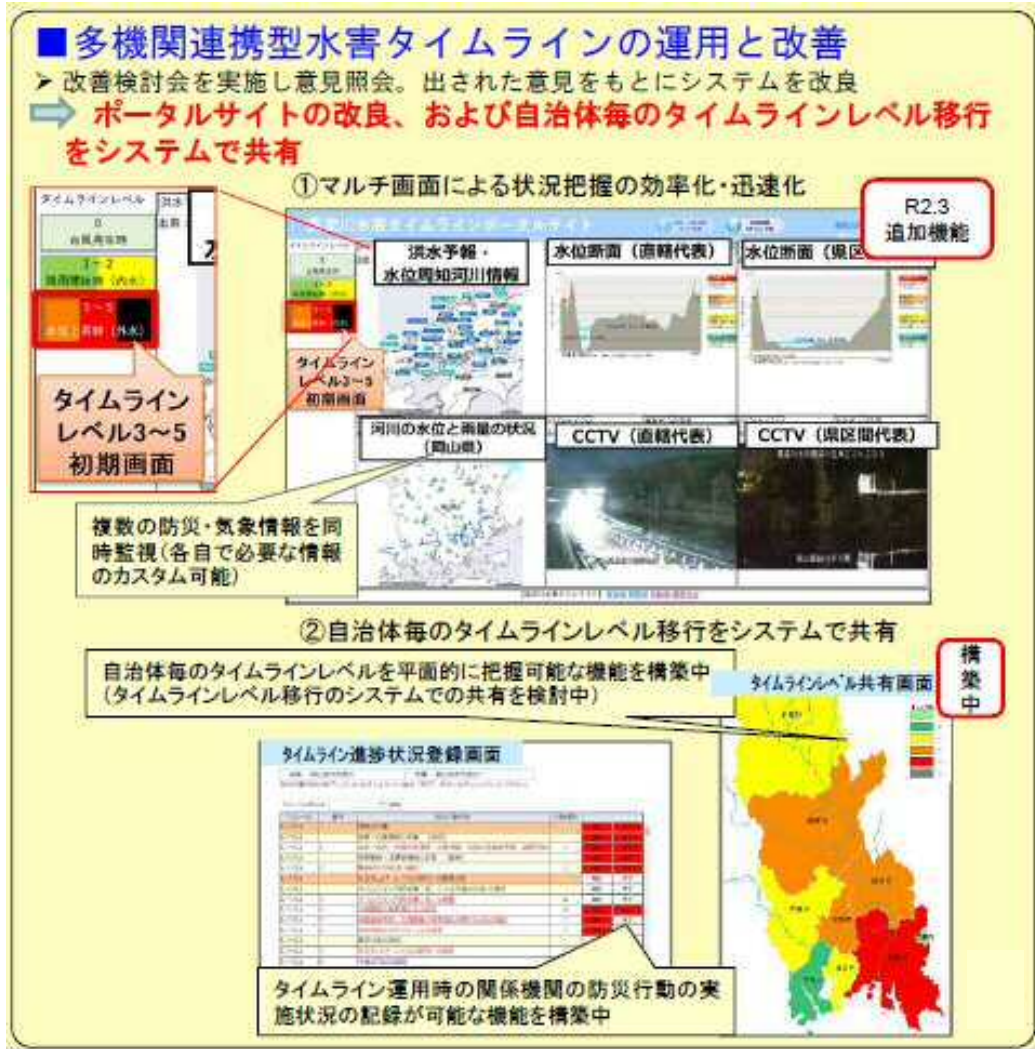


旭川排水ポンプ車訓練(令和元年)

避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成

多機関連携型水害タイムライン(高梁川水害タイムライン)の運用と改善 (真備地区アクションプランの「避難勧告に着目したタイムラインの作成」にも位置づけ)

- 令和元年度の出水期から運用を開始した高梁川水害タイムラインについては、台風や前線性降雨予想に応じて、これまでに5回運用。
- 令和2年3月に開催した改善検討会では、改良したポータルサイトの複数の雨量や水位の情報を1画面で監視できる「マルチ画面」機能等、システムの使い勝手について意見を照会。今後も構成機関の意見を再確認しさらなる改良を目指す等、継続的に振り返り、改善、運用(PDCA)を実施。



マイ・タイムラインの周知

開催場所：岡山市立曾根小学校

開催日：令和2年1月25日

参加者：約130名

概要：曾根学区避難訓練（「いざ避難」みんなで高めよう防災力・地域の絆!!）にて、
「マイ・タイムラインを学ぼう」と題して、マイ・タイムラインについて紹介させて頂きました。



説明状況



説明状況

防災教育モデル授業研修会に参加

- 主催: 倉敷市教育委員会・内閣府・文部科学省
(国土交通省は、教材として「逃げキッド」を提供、水害リスクに関する助言などの支援)
- 開催場所: 倉敷市立中洲小学校 体育館 ■開催日: 令和2年1月28日
- 参加者: 約230名(児童を除く一般来場者や学校関係者。児童は1組・3組各約30名)
- 概要: 小学5年生の「総合的な学習の時間」の公開授業として、倉敷市の豪雨災害の概要とハザードマップについて学び(第1時)、「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成と避難のシミュレーション(第3時)を行い、早期避難の重要性を学びました。
倉敷市では、令和2年度から市内全小学校で逃げキッドを教材にマイ・タイムラインの授業を行う予定です。



ハザードマップの読み方について学習



教材として活用した倉敷市洪水ハザードマップと逃げキッド



授業の様子



作成したマイ・タイムラインについて意見交換

倉敷市マイ・タイムライン講習会を開催しました



国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

■実施機関：岡山河川事務所、高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所、倉敷市、河川情報センター

■開催日：令和2年2月14日 ■開催場所：ライフパーク倉敷 大ホール

■受講者：約30名（倉敷市職員と学校教員）

■概要：

- 倉敷市職員と学校教員がマイ・タイムライン作成の指導ができるようになることを目指し、国土交通省や河川情報センター等が講師となり、マイ・タイムライン作成等の講習会を開催しました。
- 受講者は水害リスク等の受講や班での意見交換を交えながらマイ・タイムラインを作成することで、洪水時に得られる情報や避難行動の事前想定的重要性について理解を深めました。



逃げキッド



倉敷市ハザードマップ



岡山河川事務所による水害リスクについての説明



河川情報センターによる説明



マイ・タイムラインについて各班で意見交換

簡易型河川監視カメラの整備

- 近年の豪雨災害では、洪水の危険性が十分に伝わらず、的確な減災行動につながっていないことが課題となっている。
- 革新的河川技術プロジェクト（第3弾）で、機能を限定した低コストな簡易カメラ（簡易型河川監視カメラ）を開発し、多くの地点で河川状況を確認することで従来の水位情報だけでは伝わりにくい「切迫感」を共有し、円滑な避難を促進する。
- 簡易型河川監視カメラは平成30年度中に開発を完了し、令和元年度中に管内河川で約230台整備する予定。
- 岡山河川事務所管内では、吉井川水系5台、旭川水系8台、高梁川水系10台整備済



①無線式簡易型河川監視カメラ

屋外に容易に設置可能でかつ、電源・通信ともにワイヤレスで運用可能なカメラ

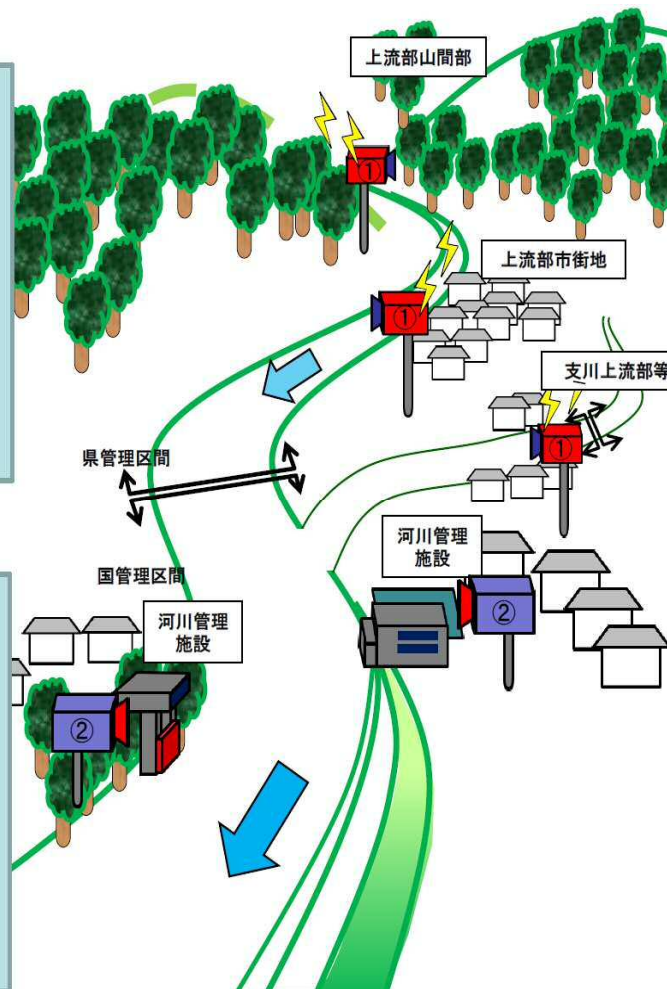
- ・主に商用電源の確保が難しい山間部等への設置や通信網（有線）の整備が難しい支川上流部や県管理区間等への設置を推進し、中小河川等の画像（映像）情報の充実化。
- ・将来的に有線通信網等を整備した際には、有線カメラとしても使用可能。



②有線式簡易型河川監視カメラ

屋外に容易に設置可能でかつ、初期導入コストが安価なカメラ

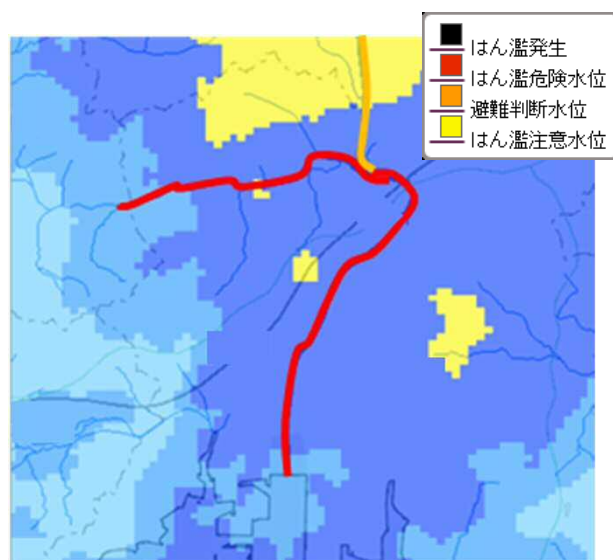
- ・商用電源や通信（有線）の確保できる箇所に設置し、河川の状態等を監視し、映像情報の充実化。
- ・河川管理施設（排水機場や樋門等）に設置し、ゲートの稼働状況や水位変動や安全確認等、広い範囲を監視（広角120°以上）する必要がある、施設監視カメラ等として設置を想定。



北海道地区における実証実験の様子

- 令和元年9月11日より、災害の切迫感を分かりやすく伝える取組みの一つとして、上流から下流まで連続的に洪水の危険度が分かる「水害リスクライン」による水位情報の提供を開始しました。
- 「水害リスクライン」は、概ね200m毎の水位の計算結果と堤防高との比較により、左右岸別に上流から下流まで連続的に洪水の危険度を表示することが可能となります。
- 自分がいる付近の川の危険度が明確となるので、迫り来る洪水の危険を自分のこととして認識し、避難行動をとるきっかけとなることが期待されます。

水位観測所の水位で代表して、一連区間の危険度を表示



「川の防災情報」の表示例

左右岸別、上下流連続的に地先ごとの危険度を表示



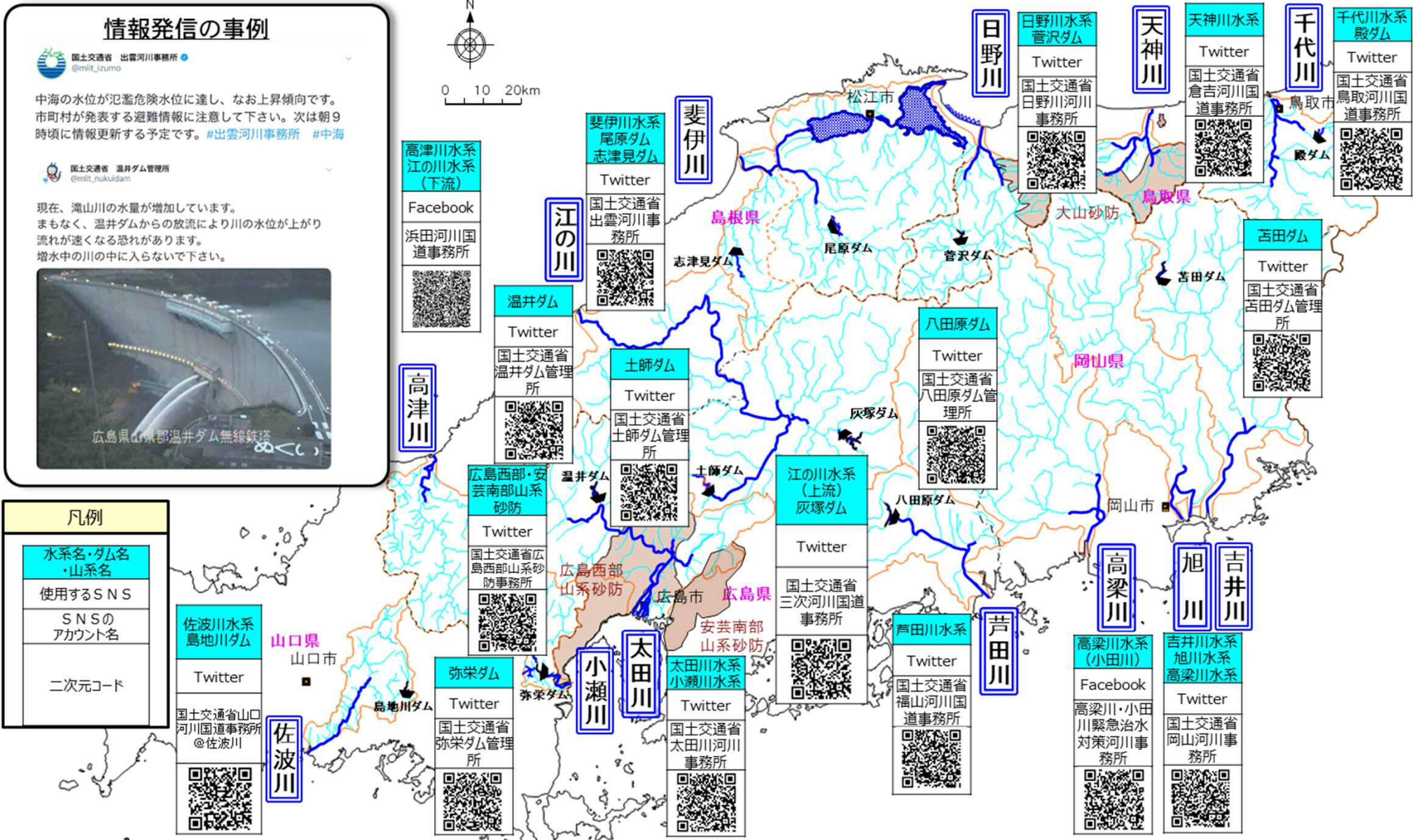
二次元コード



※計算値により危険度を評価していることから、「水害リスクライン」が示す河川の様子は、実際の状況と異なる場合があります。

SNS公式アカウントを通じた災害情報発信の強化

- 行政機関がTwitter等によるSNS上の公式アカウントを積極的に活用した情報発信を行うことで、信頼性の高い災害情報を利用者にリアルタイムで提供します。
- 洪水時の洪水予報の発令情報やダムへの洪水調節状況に加え、平常時の広報にも努めます。



岡山県の実施状況

■ 流下能力を阻害する堆積土の掘削や樹木の伐採

河道内整備事業（新ふるさとの川リフレッシュ事業）

【現状・課題】

- ・平成22年度から「ふるさとの川リフレッシュ事業」で河道掘削や樹木伐採などの河道内整備を実施してきたが、依然として対策が必要な箇所が多い。
- ・国の3か年緊急対策等により集中的に掘削や伐採を進めているが、洪水リスクの低減が必要な箇所について、さらなる対策が必要である。

【事業の内容】

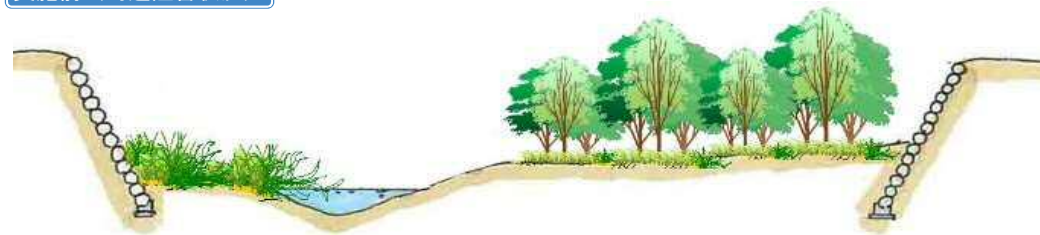
- ・土砂堆積や樹木繁茂により流水が阻害されている箇所について、緊急性の高い箇所から河道掘削や樹木伐採の河道内整備を行い、氾濫リスクの軽減を図る。

◇事業期間：令和2(2020)年度～令和6(2024)年度 [5か年]

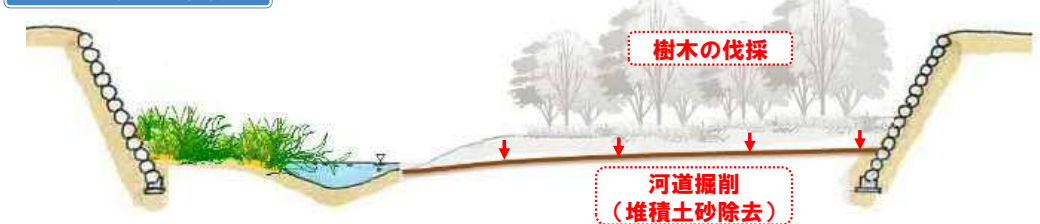
◇事業予算：33億円(R2～R6[5か年]) 令和2年度・・・10億円

河道内整備のイメージ

実施前（河道阻害状況）



実施後（掘削・伐採）



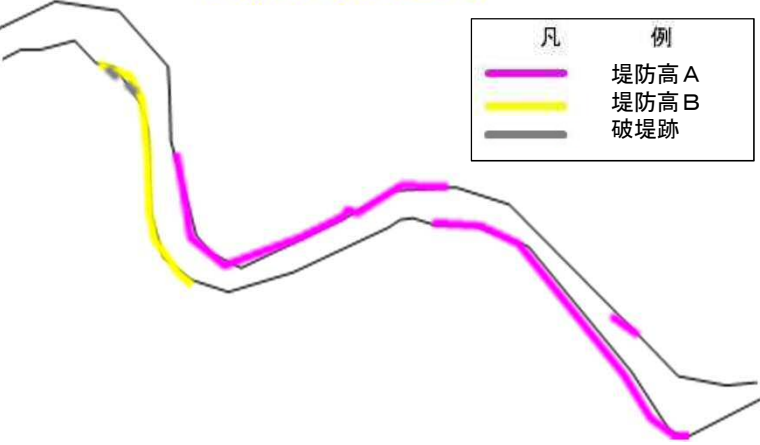
河道内整備の実施例



重要水防箇所の見直し

GISを活用して、重要水防箇所を水防団や住民等にわかりやすい情報として提供する

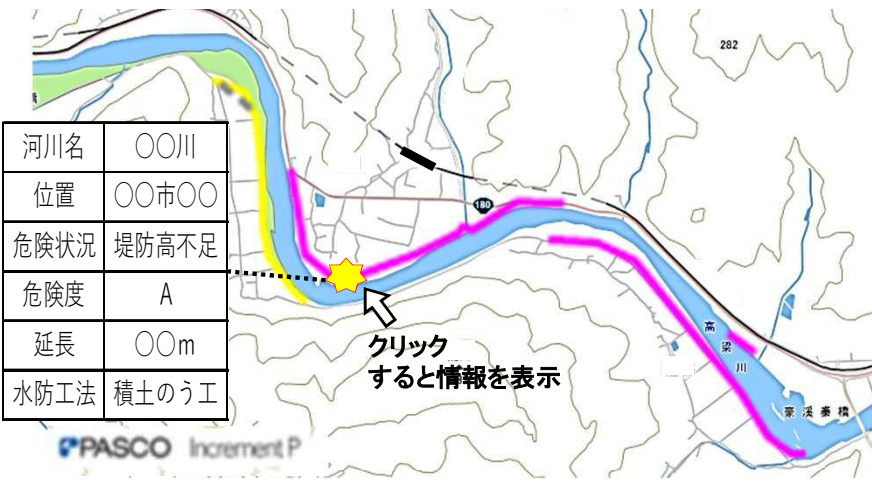
【現状(模式図)】



模式図の課題

- ・周辺地形がなく、詳しい位置がわからない。
- ・一定区間毎の図で、上下流の連続性がわかりにくい。

【GISによる表示】



GISによる効果

- ・周辺地形の地理情報により、詳細な現地確認が可能。
- ・タブレット端末等により地図上で確認が可能。

効果

○水防活動に有効な情報を提供でき、迅速な対応による被害の軽減、避難時間の確保等に寄与。

○居住地の危険状況がより把握しやすくなり、住民の避難意識の向上につながる。

■円滑な避難行動や水防活動を支援するため、危機管理型水位計や量水標、CCTVカメラの設置

◆取組状況

・ 危機管理型水位計
の増設

H30年度 41基

+

・ 簡易型河川監視カメラ
の増設

R元年度 41基

⇒

合計 71基

◆設置イメージ

■ 危機管理型水位計

水位計設置状況

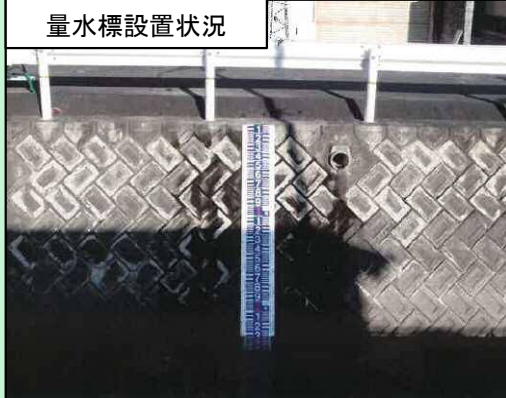


水位計公開状況



■ 河川監視カメラ

量水標設置状況



カメラ設置状況



【確認方法】専用サイト「川の水位情報」にて公開予定 「URL: <https://k.river.go.jp/> 」

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

水防工法の講義や実技演習等を行う水防研修を開催

【開催概要】

目 的	本研修を通じて、水防従事者の水防技術の向上を図るもの
場 所	県建設技術センター（岡山市北区首部）
日 時	令和元年6月17日（月）9：00～16：00
受講者	県・市町村職員（消防団員）30名
日 程	① 9:00～11:00 講義：水防法 ② 11:00～12:00 講義：水防工法 ③ 13:00～14:00 講義：ロープワーク ④ 14:00～16:00 実技演習：水防工法（土のう製作、改良積み土のう工、月の輪工）



[座学]



[ロープワーク]



[改良積み土のう工]



[月の輪工]

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

- 【目的】
平成30年7月豪雨災害を教訓とし、「自分の命は自分で守る」という「自助」、地域社会がお互いを守る「共助」、地域社会がお互いを守る「共助」、行政が住民を守る「共助」について、県民と学び会い、防災意識の向上を図る。
- 【内容】
 - ・日時: 令和元年7月13日
 - ・場所: ホテルグランヴィア岡山
 - ・講師: 室崎益輝氏(兵庫県立大学大学院)ほか

- 【効果】
 - ・約300名の県民が参加し、必要な防災知識や「自助」、「共助」の大切さについて聴講



■教員を対象とした講習会の実施、小学生を対象とした防災教育の実施

- 【目的】
県内の小学校1年生向けに「防災ワークシート」を作成し、幼少期から正しい防災・減災知識の習得を図る。また、解説に大人向けの防災知識を盛り込んでおり、小学1年生だけでなく家族全体への防災・減災知識の普及啓発を図ることを目的としている。
- 【内容】
 - ・作成枚数: 4枚(おおあめ編 2枚 じしん編 2枚)
 - ・掲載内容: 大雨や地震時にどう行動すれば良いか学ぶ。
 - ・作成部数: 各約19,000枚(県内の全小学1年生に配付)

- 【効果】
 - ・矢掛町立川面小学校にて小学1年生向けの公開授業を実施
 - ・倉敷市立川辺小学校にて小学1, 2年生向けの防災講座で活用



■災害を風化させないために河川に関するイベントや防災訓練等を実施して、住民が河川や堤防に関心を持つ取組を積極的に行う

災害復旧教室・現場見学会(砂川)

平成30年7月豪雨で堤防が決壊し、多くの家屋が浸水被害を受けた砂川において、将来を担う地元小学生に災害時に注意してほしいことを伝えるとともに、公共工事を身近に感じてもらうため、現場見学会等を開催した。

<災害復旧教室>

平成30年7月豪雨による岡山県の被害状況、堤防の構造等を説明

<現場見学会>

建設機械や護岸ブロック等の見学、小型無人機ドローンの操縦体験等



市町村の取組状況

広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等

■ 要配慮者利用施設の避難計画の作成支援および訓練の促進

要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る講習会を開催

1. 避難確保計画策定の支援

➤ 計画作成支援のための講習会を計画

平成29年、水防法及び土砂災害防止法の改正により、洪水による浸水が想定される区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設について、避難確保計画の作成及び訓練の実施が義務化されました。

岡山市では、避難確保計画の作成支援・提出率の向上を図るべく、国土交通省作成の避難確保計画のひな形を基に講習会を定期的 to開催し、要配慮者利用施設避難確保計画の策定の促進を図っています。

2. 講習会開催

➤ 令和元年度の講習会：3回実施

（第4回は新型コロナウイルス拡大防止のため中止）

対象施設数：2,112施設

参加施設数：378施設

・第1～3回の合計

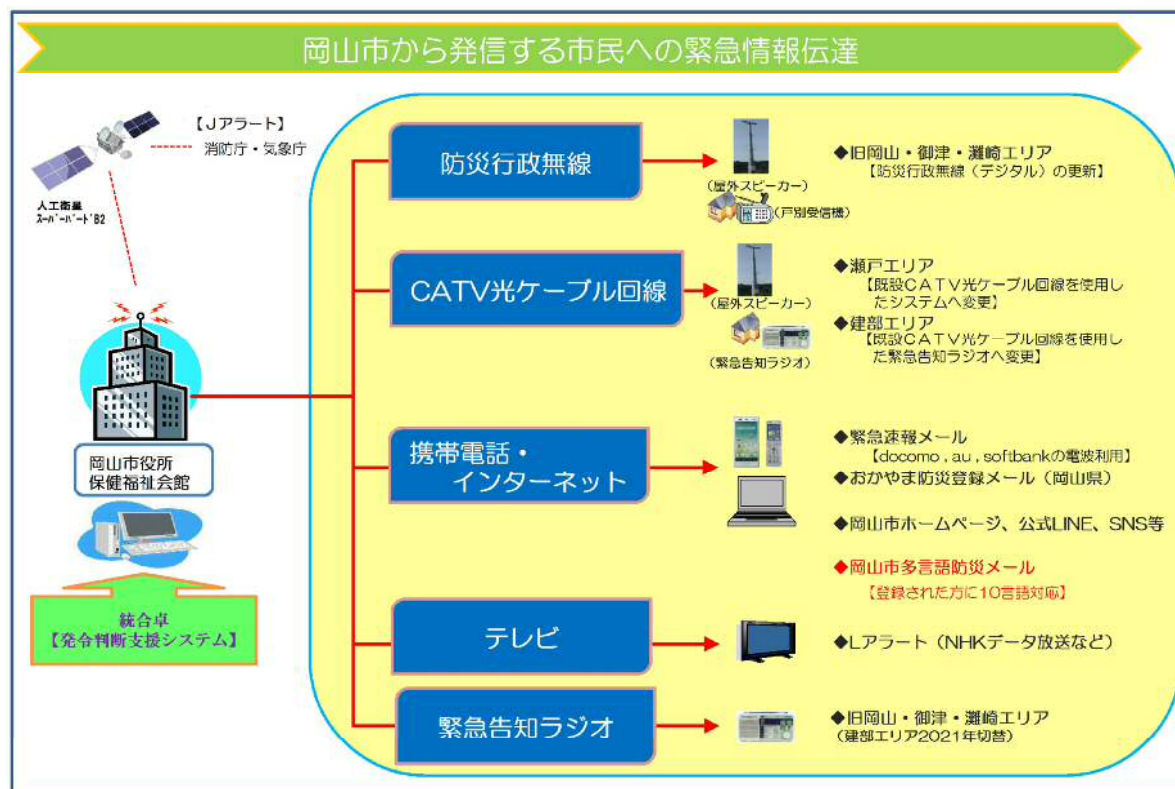
・第4回は約200施設の申込を受付

➤ 提出数：417施設（R2.4月末時点）

➤ 2021年度までに作成率100%、逃げ遅れによる人的被害ゼロの実現を目指し、今後も継続的に講習会を開催する予定。



- 防災情報の伝達手段の多様化・効率化を推進するため、同報系防災行政無線及び緊急告知ラジオを公共施設のほか、地域代表者や自主防災組織、避難所や洪水予報の伝達を要する福祉施設、危険区域の要配慮者施設などに配布している。
- 出前講座や防災教育等を実施することで防災知識の普及啓発に取り組んでいる。



防災知識の普及啓発取組内容

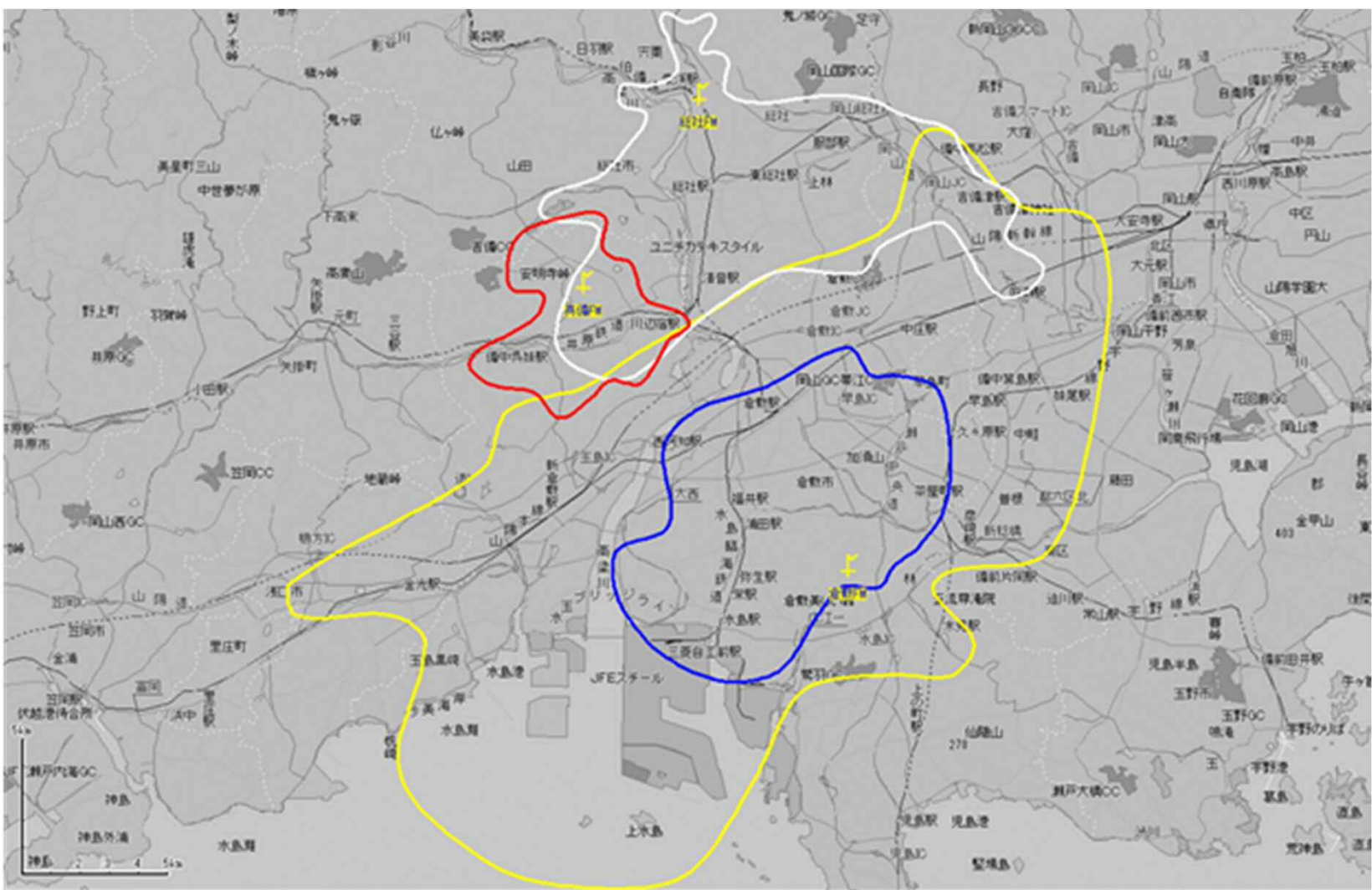
- 出前講座等...158件
- 自主防災会交流会
...10月5日、11月11日開催
- 防災士養成講座
...1月30日、1月31日開催

■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

○防災FMラジオの難聴地域に中継局設置事業を補助し、難聴地域を解消する。

真備地区のFMラジオ
難聴地域を解消。
新たな放送対象エリア
＝約4,700世帯

令和元年11月着工
令和2年4月 事業完了



■住民一人ひとりの避難計画・情報マップの作成促進

倉敷市真備町原田地区
マイ・タイムライン勉強会 ニュースレター

令和元年9月30日（日）原田地区公民館13:00～16:00

倉敷市真備町原田地区の住民の皆様を対象に、水害時における逃げ遅れゼロに向けた、マイ・タイムライン勉強会を開催しました。

◆ 参加者

原田地区 住民	13名
倉敷市	4名
岡山河川事務所	2名

1 情報の入手先確認

① NHKドボタンや川の防災情報、川の水位情報からの情報の入手方法や、おかやま防災情報メールへの登録方法を確認

② その場でブックマークやメール登録を実施

【勉強会での議論】スマートフォンや携帯で情報入手が苦手な人があるので、御近所の人から教えてもらおう。

2 マイ・タイムラインの作成

① 情報の意味合いを勉強し、警戒レベル毎に自分がとるべき行動、自治会として取るべき行動を記入

【勉強会での議論】
避難先
・ 原田地区として二万小学校に避難することを基本とする。また、親族の家などに逃げる場合は事前に会談に依る。
・ 避難先については、危険箇所を確認するなど次の機会での議論が必要
持ち出し品リスト
・ 高齢者や乳幼児がいる家庭は避難先生活が大変（炊飯器やオムツ等）
・ いざというときのため、ライフジャケットを用意しておく。

【勉強会での議論】原田地区としては警戒レベル3で避難することを基本とし、避難する際は1回原田公民館に顔を出しルールにする。

2 水害時の避難先、避難に係る所要時間、持ち出し品リスト

① 水害時の避難先を、平成30年7月豪雨の経験をもとに確認

② 避難先までの距離、移動手段、所要時間を記入

③ 持ち出し品リストをチェックし、準備が必要な品を確認

【勉強会での議論】
点検時の避難先
避難先
避難先までの距離
所要時間
持ち出し品リスト

【次回】避難先の検討、まちあるきを実施予定

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

出前講座を今年度74回実施しました。



令和元年度
倉敷市総合防災訓練

令和元年9月22日（日）～雨天中止～
メイン会場：現島ポートレース場
9:00～11:00 予定
地区会場：各小学校・自治会等
（自主防災組織が主体的に実施）
9:00～12:00 予定

主催：倉敷市・倉敷市消防局・倉敷市消防団

参加団体
児島警察署、岡山県消防本部、岡山県消防防災航空隊、海上自衛隊日本海軍基地第13特科隊、自衛隊岡山地方協力本部及び倉敷地域事務所、川崎医科大学附属病院、倉敷市連合医師会、倉敷市社会福祉協議会倉敷ボランティアセンター、倉敷市災害ボランティア・コーディネーター連絡会、中国電力倉敷発電所、NNTTdata、新エフエムくらしま、新倉敷ケーブルテレビ、一般社団法人日本アマチュア無線連盟岡山県支部、古備救助犬育成会アウフ、ドローンビジネスラボラトリー倉敷支隊、日本防災士会岡山県支部、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン、岡山県LPガス協会倉敷地区、西日本電気通信、西日本三豊自動車販売、倉敷市立短期大学、市内防災士

防災訓練については、台風接近のため中止となりました。

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

「倉敷市災害に強い地域をつくる検討会」にかかる、
防災講演会を実施しました。

日時 令和2年2月1日(土) 14時00分～16時10分
場所 倉敷市民会館 ホール(倉敷市本町17番1号)
講師 片田敏孝氏 東京大学大学院情報学環 特任教授
群馬大学 名誉教授
来場者 約1,800名(来賓含む)



～「釜石の奇跡」で知られる片田先生が市民会館で講演！～

倉敷市防災講演会

～荒ぶる自然災害に向かい合う犠牲者ゼロの地域づくり～

令和2年2月1日(土) 開場:13時00分
開演:14時00分

入場無料
事前申し込みが
必要です。

※写真は平成28年に開催された防災講演会のものです

【会場】倉敷市民会館 ホール(倉敷市本町17-1)
倉敷市民会館の駐車場は使用できません。別に、倉敷東小学校・倉敷西小学校・倉敷市立西を駐車場として用意しています。ただし、台数に限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。

講師:片田 敏孝
倉敷市災害に強い地域をつくる検討会 委員長
東京大学大学院情報学環 特任教授
群馬大学 名誉教授

専門は災害社会工学。災害への脆弱性評価、災害情報伝達、防災教育、避難誘導等のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。特に、釜石市においては、平成18年から児童・生徒を中心とした津波防災教育に取り組み、地域の災害文化としての良さを引き継ぎ、防災に立ち向かう土壌の定着を期して来た。平成24年には、防災の功労者として多くの内閣府大臣賞を受賞している。

【申込方法】
倉敷市にお住まい、通学されている方、又は被災等の理由により市外へ転居された方を対象に申込みを受け付けます。先着順で受け付けられ、抽選券を配付いたします。抽選・自由席、次のいずれかの方法で申し込みができます。詳しくは市ホームページを確認するか、電話までお問い合わせください。受付期間:1月8日(金)～1月24日(金)

- ・電話 倉敷市コールセンター (TEL:086-426-3030) 8時～21時
- ・FAX 倉敷市防災推進課 (FAX:086-421-2900)
- ・電子申請 倉敷市ホームページより申し込みできます

主催/倉敷市 (TEL:防災推進課 086-426-3131) 協賛/倉敷市教育委員会

手話通訳・要約筆記あり

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

防災行政無線の配備



屋外拡声器



戸別受信機

平成の大合併時の町村地域(加茂町・勝北町・久米町・阿波村:旧町村地域)については、従前から防災行政無線及び有線放送設備が整備されていたが、アナログ方式の設備や、周波数の統一等の課題もあったことから、周波数の統一とデジタル化を順次、実施。

- 【平成16年度】 阿波地域 設備更新
- 【平成24・25年度】 勝北地域 有線放送設備⇒防災行政無線(デジタル)
- 【平成27年度】 久米地域 設備更新(デジタル)
- 【平成28年度】 加茂地域 設備更新(デジタル)

戸別受信機普及状況 6,654台(平成31年3月現在)
※エリア内ほぼ全戸に設置

緊急告知防災ラジオの無償配布と販売



緊急告知防災ラジオ

平成の大合併時における津山市地域(旧市内地域)については、従前から防災行政無線設備が無かったことから、市内コミュニティFM局をキー局とした緊急告知防災ラジオの整備を実施。

- 【平成25年度】
 - ・公共施設(指定避難所)、自主防災組織(町内会)、避難行動要支援者等への無償配布を開始
- 【平成26年度】
 - ・旧市内地域の世帯を対象に、購入補助制度を開始
- 【平成31年度】
 - ・購入補助制度を見直し、販売事業へ転換(ラジオ購入に係る市民負担は、変更なし)

普及台数 3,208台(令和2年3月現在) 普及率 8.9%(対象想定世帯数 36,000世帯)

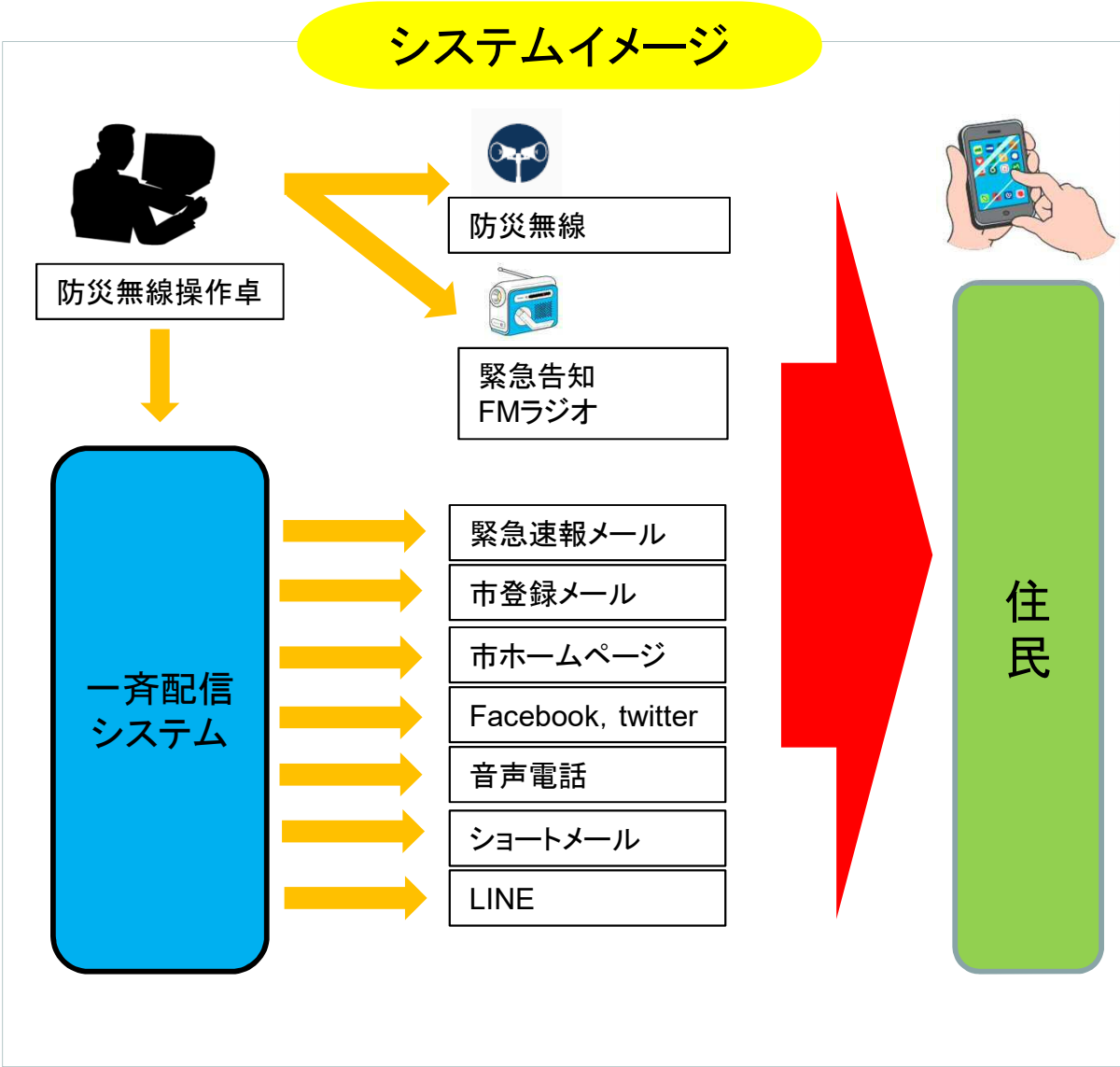
A photograph showing a large dam with several spillways and a control building. In the foreground, a small white boat is on the water. The water appears somewhat turbulent. The sky is overcast.

■スマートフォン等へのプッシュ型洪水情報等の発信

災害情報一斉配信システムの導入について

【目的】
市が保有，運営する災害情報配信手段を職員がワンオペレーションで操作することで，市民への円滑かつ確実な災害情報（気象情報，避難情報，J-ALERT）の配信及び職員の負担低減を図る。

- 【特徴】
以下の情報発信手段を一斉配信するシステムを構築する
- 市デジタル防災行政無線
 - 緊急告知FMラジオ（防災無線自動連携）
 - 緊急速報メール
 - 市登録メール
 - 市ホームページ
 - 市SNS（Facebook，Twitter）
 - 音声電話【新規】
 - SMS（ショートメールサービス）【新規】
 - LINE【新規】



■内水の排水活動に資する基盤等の整備

排水ポンプの整備・移動式排水ポンプの配備
地域住民への水防災意識の醸成

【目 的】

ハード：豪雨時、小田川堤内地に溜まった内水を排水ポンプにより小田川本川へ排出し、住民の避難時間の確保を図る

ソフト：住民主導の取り組みを支援し、水防災意識の向上を図る

【概要(ハード)】

○市内4台配備(H24. 3月 倉掛・柳ヶ坪・首高)、(H30. 11月 北側)

○移動式排水ポンプ2台の購入(H31. 3月)

【今後の予定】

○新設3台、既設ポンプの増強1基を予定

【今後の課題】

○平成30年7月と同程度の豪雨が発生した場合、市職員で出動できる人員の不足

→危険のない範囲での地域住民の自主的な対応

○排水ポンプがあるから大丈夫という住民の過度の信頼

→絶対ではなく、あくまで避難時間の確保であることの認識

○排水ポンプ設置以外の箇所での要望

→移動式排水ポンプを導入するが、全市的に発生した場合の優先順位の決定に苦慮

【住民による活動(ソフト)】

背景：平成30年7月豪雨以来、住民の危機意識の向上が一段と増した。

○平成24年から河川沿いの地区を対象に堤防決壊を想定した避難訓練を行っている。

○住民の提案により、排水ポンプの操作方法を学習する説明会を開催した。

○雨期を前に消防団による水門操作の勉強会を開催した。



堤外地



堤内地

▲排水ポンプの設置(西江原町地内:首高排水ポンプ場)



▲地域住民に対する操作説明会(井原町:倉掛地区)

▲小田川決壊を想定した避難訓練
(木之子地区)▲消防団員による水門点検
(西江原分団)

■災害を風化させないために河川に関するイベントや防災訓練等を実施して、住民が河川や堤防に関心を持つ取組を積極的に行う

令和元年度 総社市総合防災訓練(総社市) 令和元年11月24日(日)

- ・総社市清音福祉センターで平成30年7月豪雨と同程度の降雨，夜間の発災を想定し総社市総合防災訓練を実施。
- ・災害対策本部訓練のほか，ペット避難所の設営，段ボールベッド組立，AMDAによる防災講話，救急救命訓練，炊き出しなどを行い地域防災力の向上を図った。

夜間訓練の様子



段ボールベッドの組立



ペット避難所の様子



■避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成及び精度向上

高梁市水害タイムライン

- ・「高梁川水害タイムライン」を基に、高梁市の災害対策本部全班の防災行動について292項目の行動手順を時系列に整理。
- ・令和元年度は3回発動。台風10号で試行運用し、9月から正式に運用開始。
- ・出水期後の振り返りでは、ほとんどの部署が出水対応に効果的であると回答。
- ・毎年見直しを行い、出水対応に活用していく。

タイムラインレベル	警戒レベル	目標	情報・状況	対応行動				役割									
				行動項目 (第1階層)	行動細目 (第2階層)	No	行動手順・内容 (第3階層)	本部 班 (防災復興推進課)	広報 班 (秘書広報課・大学連携室・歴史まちづくり室)	総務 班 (総務課)	財政 班 (理財課)	調査 班 (税務課)	協力 班 (会計課・監理課・議会事務局・農林班)	農林 班 (農林課・有害鳥獣対策室・農業委員会事務局)	農林 班 (西部土木事務所)	商工 班 (産業観光課)	土木 班 (建設課・岡山道4車線化推進室)
レベル0 (3日前準備)	-	内部調整	・早期注意情報(警報級の可能性) ・3日後に台風や大雨が高梁市に影響する恐れ	情報の収集	気象・台風情報の収集【継続】	1	全般・地方・府県気象情報、台風情報、台風5日進路予報、週間予報の確認	収	収	収	収	収	収	収	収	収	収
					気象警報・注意報情報の収集【継続】	2	早期注意情報(警報級の可能性)の確認	収									
				タイムライン立ち上げ(レベル0移行)の意思決定	立ち上げの意思決定	3	タイムラインの立ち上げ協議(レベル0(3日前準備))	◎									
						4	台風進路予測、早期注意情報等から0hの設定	◎									
						5	防災体制のスケジュールの設定	◎									
					意思決定の周知	6	タイムライン立ち上げ(レベル0(3日前準備))の周知	発	受	受	受	受	受	受	受	受	受
						7	今後の方針の周知	発	受	受	受	受	受	受	受	受	受
				災害対策本部等の設置準備	災害対策本部等の設置準備	8	会議室の確保	◎									
						9	連絡網の用意	◎									
						10	本部設置の事前周知	◎									
				水防活動の準備	資機材の準備	11	水防資機材の確認										◎
					体制の構築準備	12	動員体制の確認										◎
					希望住民への土のう配布	13	人員の確保										◎
						14	土のう・資機材の準備										◎
						15	土のうの配布										◎
					対応状況の伝達	16	土のう配布状況の伝達	受									発
					河川敷の設備等撤去の検討	17	設備等撤去時期の決定										◎
						18	受注者への準備連絡										◎

■水位計やライブカメラの情報をリアルタイムで提供

河川監視カメラの整備

- ・河川の状況を市民に提供し早期の避難行動に結び付けるため河川監視カメラを整備。
- ・高梁川及び成羽川の8箇所にカメラを設置。
- ・ケーブルテレビに新たにチャンネルを作り、リアルタイムで放送。高梁市ホームページで静止画像を配信。

吉備ケーブルテレビ放送



高梁市ホームページ画像配信



■住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進

住民一人一人の防災行動計画であるマイタイムライン講習会を開催

- ・お天気キャスターによる市民向け講習会を開催し、52名が参加。
- ・職員がマイタイムラインの講師ができるよう、職員向け講習会を実施。
- ・地域の自主防災組織の催しで講習会を開催(2か所)し、約110名が参加。
- ・市民向け講習会参加者に対するアンケートでは、98%の人がタイムラインが有効であると回答。



◆市民向け講習会
(令和元年12月1日開催)



◆職員向け講習会
(令和元年11月29日開催)

◆教材「逃げキッド」



■水位計やライブカメラの情報をリアルタイムで提供

河川監視カメラの増設・更新

【目的】

昨年の7月豪雨災害などを踏まえ、河川の状況をリアルタイムで提供することにより、市民がより早くより確実な避難行動を行うことができるよう、市内に河川監視カメラを増設・更新する。

【設置箇所】

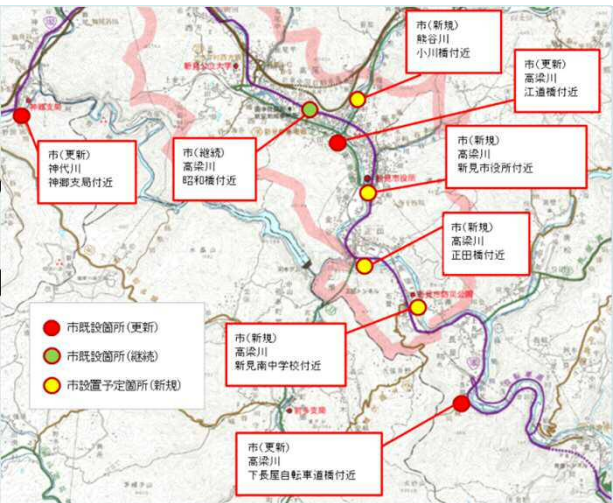
市内7箇所

○増設箇所(4箇所)

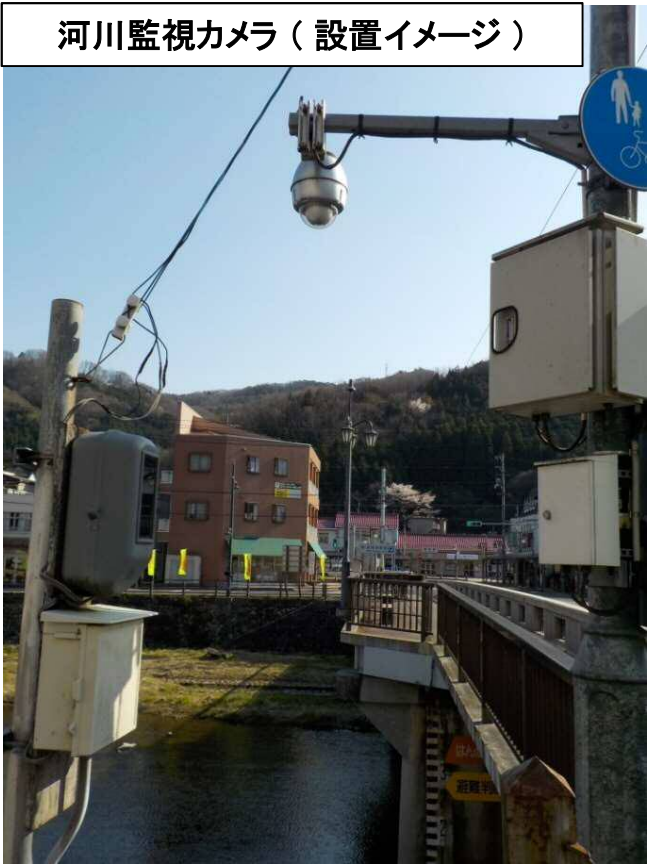
- 新見・新見市役所付近(高梁川)
- 正田・正田橋付近(高梁川)
- 石蟹・新見南中学校付近(高梁川)
- 高尾・小川橋付近(熊谷川)

○更新箇所(3箇所)

- 西方・江道橋付近(高梁川)
- 長屋・下長屋付近(高梁川)
- 神郷下神代・神郷支局付近(神代川)



河川監視カメラ(設置イメージ)



【公開方法】

○市ホームページ(静止画)

○吉備ケーブルテレビ(動画)

※吉備ケーブルテレビの11chにて、新見市内の河川監視カメラの映像を、高梁市内の映像とともにライブ放送。

【公開時期】

令和2年度出水期までに公開予定。

■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

・デジタル同報系防災行政無線の整備

防災情報など地域住民への迅速かつ的確な情報伝達体制を確立するため、効果的な伝達手段の主軸としてデジタル同報系防災行政無線を整備する。R1年度に実施設計を完了。R2年度から整備工事に着手。

防災教育や防災知識の普及

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

R1年度総合防災訓練の実施

- ・令和元年9月1日(日)
備前市吉永B&G海洋センター
グラウンド及び体育館

・雨の降り始めから累計雨量が150mmに達し、金剛川の水位が急激に上昇。河川氾濫による浸水や土砂災害発生の恐れが出てきていると想定。

・グラウンドでは、消防団による水防工法訓練、自主防災組織は近隣へ避難の声掛けを実践。避難所に想定した体育館へ移動後、避難所運営訓練及びマイ避難カードの作成を行うなど自主避難体制の強化を図る内容とした。



防災教育や防災知識の普及

■災害を風化させないために河川に関するイベントや防災訓練等を実施して、住民が河川や堤防に関心を持つ取組を積極的に行う

令和元年度瀬戸内市総合防災訓練

実施日：令和元年9月8日（日）

場所：瀬戸内市立長船中学校

（訓練概要）

- ・前線停滞による大雨により河川水位の上昇により河川氾濫の危険性が高まった想定で実施
- ・住民参加の訓練として地域防災リーダーを中心に段ボールベッド設置や要配慮者の支援訓練を実施
- ・市内中学・高校生もボランティアとして訓練に参加



■関係機関が連携した実働水防訓練の実施

岡山県が実施する令和元年度岡山県水害特別防災訓練に参加して、台風の接近に伴う市災害対策本部の応急対応力の向上を図ることを目的に、タイムライン形式の防災行動計画に基づく応急対応と処置要領を訓練するとともに、草生地区住民による避難訓練との連携を図り実施した。

災害対策本部の運営



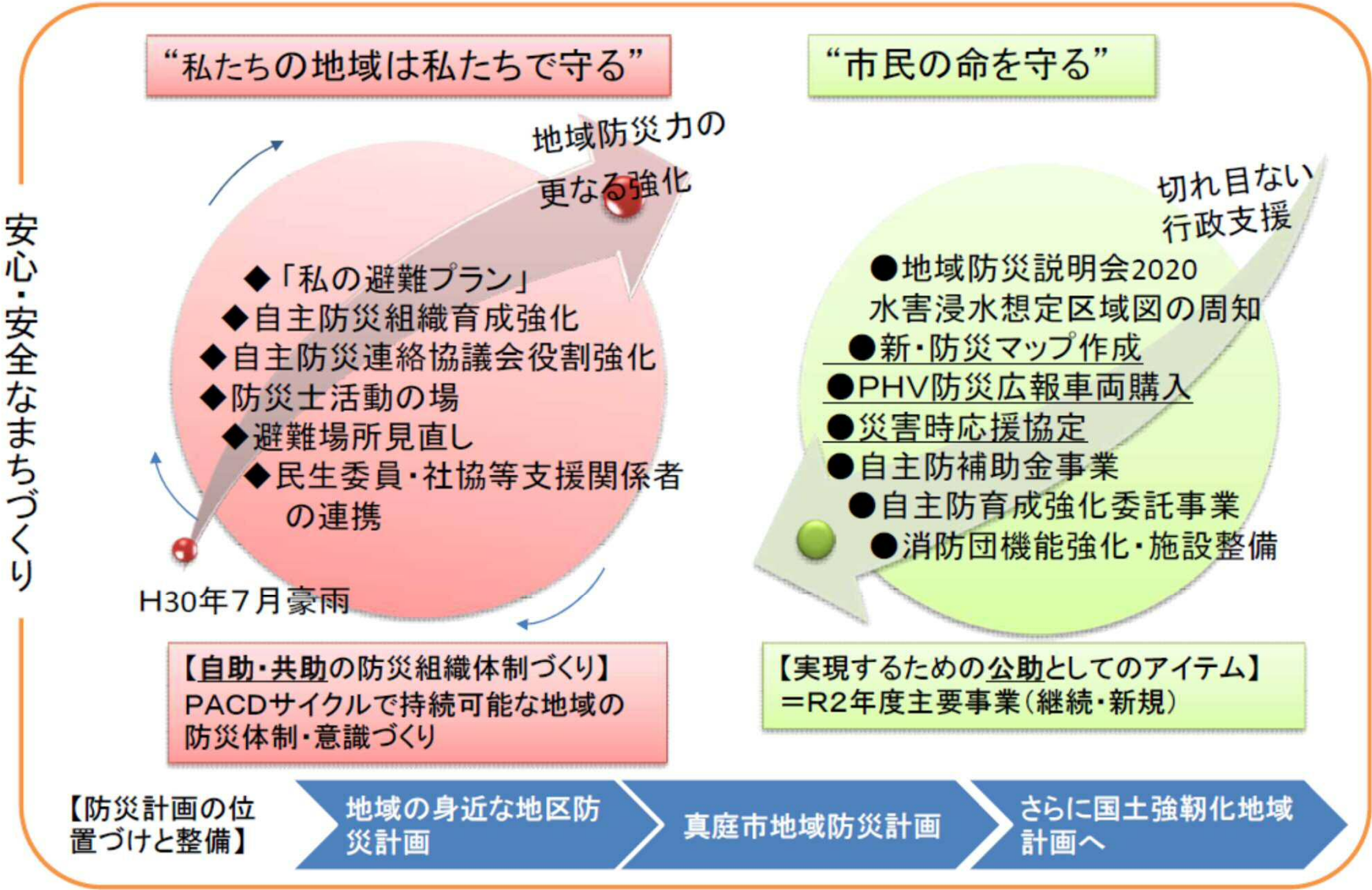
避難訓練・避難所開設



- 1 日時
令和元年6月5日(水)9時00分～17時00分
- 2 場所
 - (1)図上訓練
赤磐市役所、各支所
 - (2)避難訓練
草生地区及び赤磐市吉井B&G海洋センター
 - (3)参加機関
赤磐市、岡山県、自衛隊、赤磐警察等
8団体 101名
 - (4)訓練項目
 - ①タイムラインの作成、対応
 - ②防災配備体制の段階的強化
 - ③情報の収集・伝達
 - ④災害対策本部の運営
 - ⑤避難訓練及び避難所の開設(草生地区)

■効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ広報や資料の作成

災害に強いまちづくり ～地域防災力の向上を目指して



避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

■ 避難活動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備

可搬式排水ポンプの整備

目的

内水氾濫に対応した避難時間の確保
浸水エリアの早期復旧等

配備台数	最大吐出量	管理	運用
16台	1.7 m ³ /min	美作市	消防団等



排水ポンプ訓練の様子

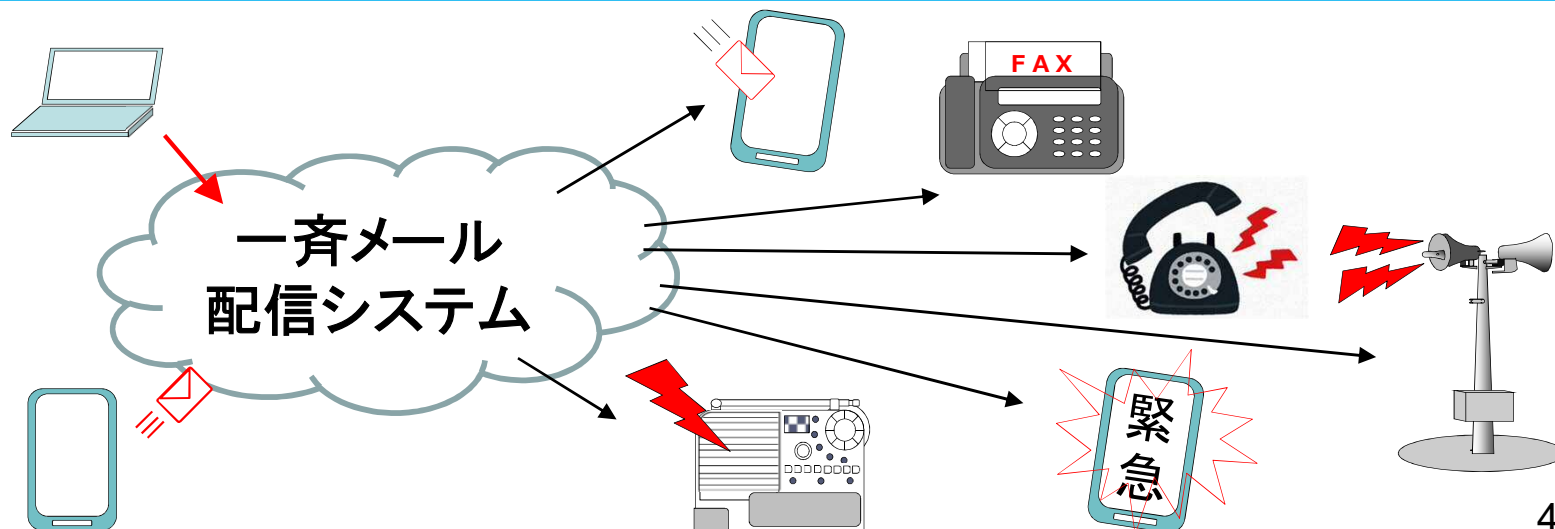
防災教育や防災知識の普及

■ スマートフォン等へのプッシュ型洪水情報等の発信

災害情報の発信

主な発信手段

- ・告知放送
- ・登録制メール
- ・緊急速報メール
- ・CATV(データ放送含む)
- ・美作市公式アプリ
- ・ホームページ 等



避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

・防災ラジオの配布

防災情報の伝達手段の多様化を推進するため、公共施設、学校、介護施設、自主防災組織等に配布している。

防災教育や防災知識の普及

■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

・出前講座の実施

自主防災組織、町内会などに出向き、我がこととなるように地域の災害特性に合わせた内容で防災講話等を行い、防災意識の高揚を図っている。

・職員を対象とした河川の氾濫を想定した気象防災ワークショップ（県内初）

・台風接近3日前からのマイタイムライン作成研修（継続）
逃げ遅れゼロをめざして、住民がグループ毎に対応を検討・発表するとともに相互に共有してマイタイムラインを作成した。



防災出前講座



気象防災ワークショップ



マイタイムライン作成研修



■水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

自主防災組織が独自に作る「わがまちハザードマップ」

町内全ての自主防災組織を対象に、NPO法人まちづくり推進機構岡山の徳田先生を講師にお招きして、「わがまちハザードマップ」作成の講座を実施。2会場で実施し、47 自主防災組織130名の方に参加していただきました。



その後、各自主防災組織で「まち歩き」や「マップ作り」を実施しています。完成した「わがまちハザードマップ」を各区民に配布し、防災意識の向上を図ります。この事業は、全地区での作成を目標に今後も継続していきます。

■総合防災訓練時の土のう作り体験の実施

令和元年9月29日に、およそ1,000人が参加し早島町総合防災訓練を実施しました。

訓練の一環で、自衛隊の協力のもと土のう作り体験を実施し、参加した自主防災組織や小・中学生は、自衛隊による土のう作りの説明を受けたあと、実際に土のう袋にスコップで土を入れ、袋の口をしぼる一連の作業を体験しました。



■小学生を対象とした防災教育の実施

早島小学校では、5年生の総合教育として通年で防災教育を行っており、その一環として、令和元年10月28日には約130人が参加し、避難所生活体験が行われました。

外部講師による避難所生活の現状や課題等の説明の後、実際に小学校の体育館を避難所として、1日目・2日目・6日目のそれぞれの避難生活を体験しました。



■避難場所等の有効性の検証や広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知、及びまるとまちごとハザードマップ整備

想定最大規模降雨及び計画規模降雨による里見川の氾濫区域図の周知
防災マップの作成及び配布

＜目的＞
岡山県による浸水想定区域が公表されたことにより、里見川における想定最大規模降雨及び計画規模降雨による被害が想定される浸水想定区域を示した防災マップを作成し、町内各戸へ配布するとともにホームページでも公開した。

- ＜特徴＞
- ・町民に被害の想定区域がよりわかりやすく伝えるために、里庄町が保有する航空写真データを活用し作成した。
 - ・防災マップを作成し、配布するだけでなく、逃げ遅れゼロを目指して周知用のハンドブック及び家庭で作成できる「マイ・タイムライン」をセットにして配布した。
 - ・同時に一部の避難所の見直しも行った。

掲載URL
<https://www.town.satosho.okayama.jp/soshiki/2/5117.html>





■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

戸別受信機の導入、防災情報配信システムの強化(一元化)

計画書： 風水 第2章第1節第2項 地震 第2章第2節第2項

- ・携帯電話網を利用（大量の端末に同時に配信可能）
- ・既読等の確認が可能（双方向）
- ・役場庁舎内へシステム管理用のサーバを配備
- ・避難情報の配信は、スマートフォン所持者へは事前にインストールされたアプリ経由で、スマートフォンのない世帯（主に高齢者のみの世帯を想定）へは配布（貸与）した戸別受信機により避難情報を配信（アプリ 4,000ライセンス 戸別受信機 2,000台）
- ・一斉配信システムも同時期に整備。アプリや個別受信機に限らず、既に整備している以下の伝達手段についても同時配信が可能となった。



情報伝達手段(既存)

緊急速報メール，町登録制メール，町HP，町SNSほか

■円滑な避難行動や水防活動を支援するため、危機管理型水位計や量水標、CCTVカメラの設置)

量水標、CCTVカメラの設置

- 【目的】
災害対策本部での避難勧告等の発令を定量情報を基に迅速に行うため、村
独自で村内2か所に夜間でも量水板を直接視認できる河川監視カメラを設置
- 【特徴】
○光ファイバーと商用電源を用いたカメラのため画像が鮮明

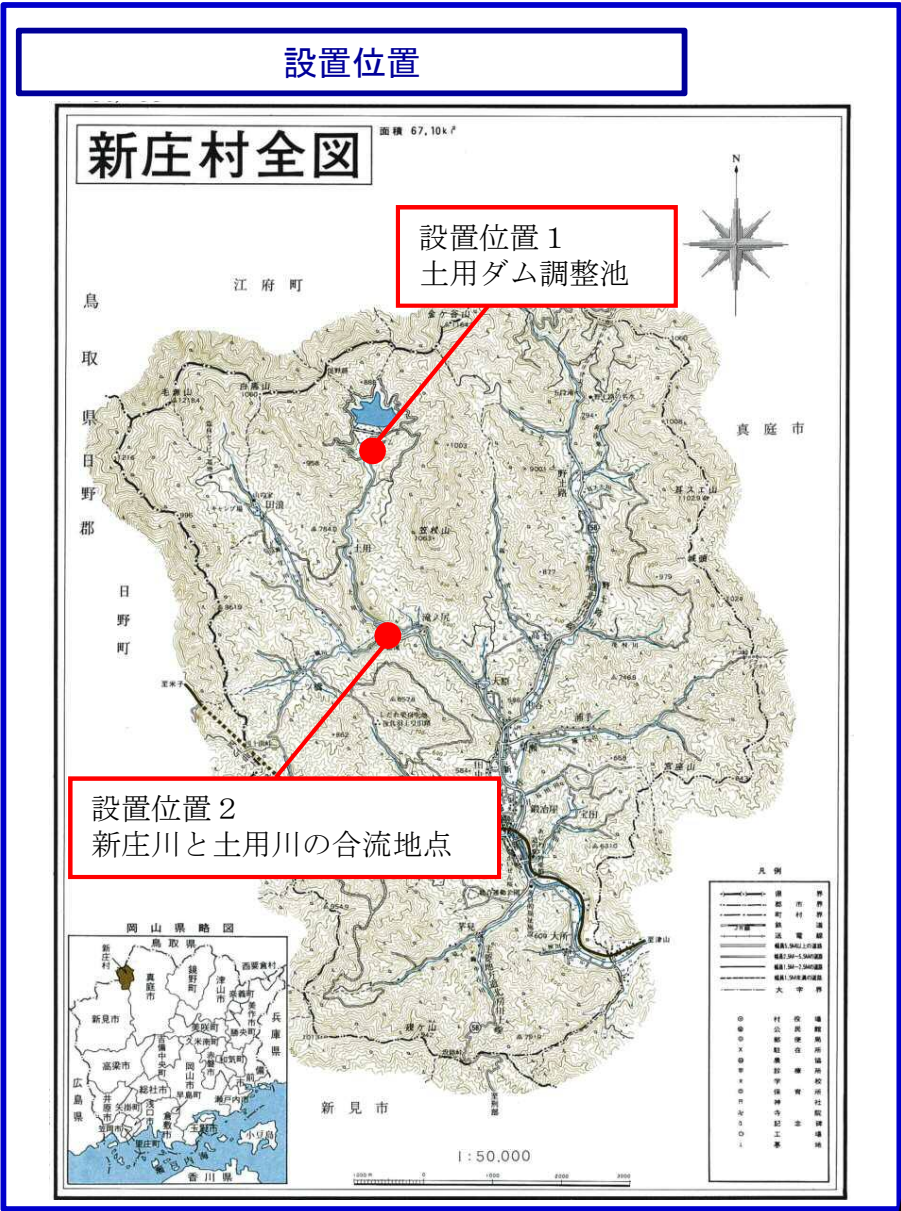
表示画面(平成30年台風24号接近時)



14:00頃
水位0.9m程度



18:00頃
水位1.7m程度



■ 水位計やライブカメラの情報をリアルタイムで提供

河川監視カメラ及び量水標の設置について

【目的】

河川の水位観測について、河川監視カメラ及び量水標を設置し、映像で配信することにより、現在の水位状況を確認できる事により、水防活動体制や避難行動に活用する。

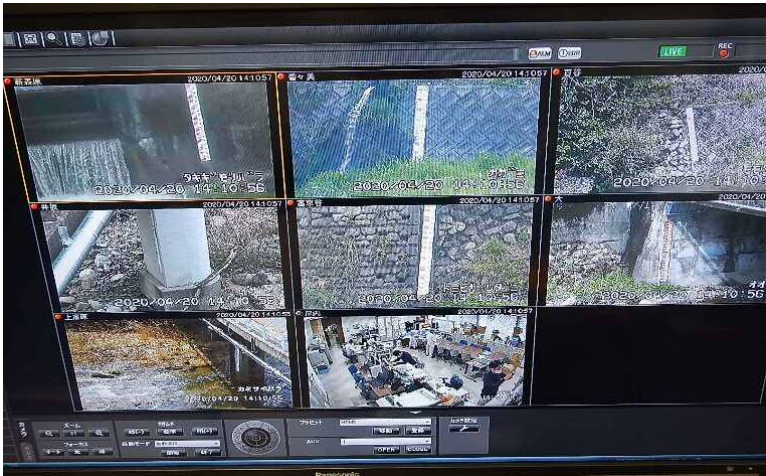
※令和元年度事業(上齋原地区量水標設置 事業費50千円)

【画像配信】

- 鏡野町ホームページ
- 鏡野町ケーブルテレビ



設置状況



【設置場所】

- 町内7ヵ所に設置
- ・鏡野地域: 薪森原、香々美、百谷
- ・奥津地域: 井坂
- ・上齋原地域: 上齋原
- ・富地域: 富東谷、大

鏡野町役場 危機管理室に集中管理システム設置

■関係機関が連携した実働水防訓練の実施

勝央町総合防災訓練

【目的】

この訓練は、風水害・洪水の発生を想定して勝央町の防災組織を動員及び消防団、消防署と連携し、**要支援者支援活動の円滑化**及び迅速かつ効果的な体制の確立、**水害への備え**を図り、防災意識の高揚と防災体制の万全を期することを目的とする。

【内容】

豪雨を想定して町内21自主防災組織及び町、消防団、消防署と連携、避難行動要支援者1,465名の**安否確認訓練**、浸水被害を想定した**救助訓練**、各自主防災組織による**土のう作成訓練**などを実施。



公民館などの避難所に
要支援者安否確認拠点を設置



勝央町役場本庁での
はしご車による救助訓練



自主防災組織での
土のう作成訓練

■災害を風化させないために河川に関するイベントや防災訓練等を実施して、住民が河川や堤防に関心を持つ取組を積極的に行う

災害避難カードの町内全戸での作成

水害・土砂災害を含む、避難の合図(条件)、避難行動を各戸毎に作成し、自宅、自主防災組織(地区)、役場で保管して共有し、避難行動に対する防災意識を普及

※令和元年11月9日 町の防災訓練に合わせ、全19地区毎に避難訓練後にワークショップ方式で作成を実施、当日の不参加者分を含め、年度末までに役場保管分を提出



成松地区



西原地区



皆木地区



久常地区

[災害・避難カード]		[役場用]
名 前 (世帯分)	家族 人	
住 所 奈義町		
緊 急 連絡先		

災 害	避難の合図	避難行動
大 雨 洪 水 土砂災害		【日中】
		【夜間】
地 震		【日中】
		【夜間】

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

■防災行政無線の改良、防災ラジオ等の配布

FM告知機について

- これまで防災行政無線で行っていた防災放送（火災放送、大雨等の警報、定時チャイム）とIP告知機で行っていた行政放送（役場からの定時放送、地区放送等）を1台で行う。
- 既設のCATV網を利用することで、行政放送・防災放送・FMラジオをクリアな音声で聞くことが可能。
- 停電時にはバッテリー駆動に切り替わり、緊急放送等を受信可能。また、持ち出しラジオとしても利用できる。

新たに導入した FM告知機



【設置基準】

- ・全世帯に無償貸与
- ・1世帯に1台、1事業所に1台
- ・2世帯住宅の場合も原則1つの建物に1台
- ・空き家等は要相談。

【導入の経緯】

- ・NTTサービス更改により以前まで使用していたIP告知が利用不可となった。
- ・防災行政無線の老朽化。故障の恐れが高まる上、交換部品も製造終了となり故障対応が困難となることが予想された。
- ・アナログ行政防災無線の免許期限の到来。

↓
これまで行っていた放送をカバー可能で、火災放送等との連携が可能なFM告知の導入を決定。

↓
平成29年11月～ 機器取替作業
令和2年4月現在 全世帯へ設置
今後も追加設置希望への対応や故障対応を行う。



7月豪雨を受けた、追加設置等の広報



IP告知機



防災行政無線

■スマートフォン等へのプッシュ型洪水情報等の配信

LINE等を使用した登録制メールの整備について

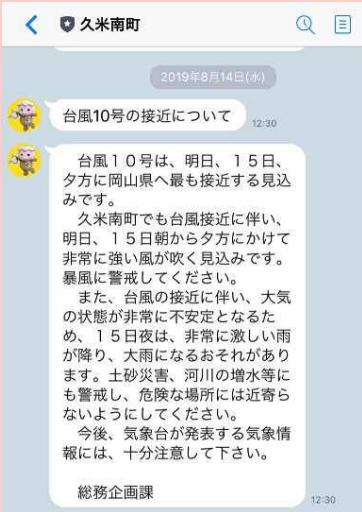
【目的】
町民への情報伝達手段の多様化及び多重化を目的とし、LINEとメールを活用した登録制メール配信システムスの整備を行い、確実な情報伝達を図る。

- 【特徴】**
- ワンオペレーションで複数の情報手段へ一斉送信が可能なため、職員による複数の情報伝達手段に入力する作業負担を軽減することができる。
 - 登録時にLINEまたはEメールのどちらかを選択することができるほか、防災情報以外の行政情報等の配信への使用が可能である。
 - 登録制メール整備時にLINE地方公共団体プランに加入することで、LINE公式アカウントを無償利用できるため、その他のシステム利用料のみで利用することができる。

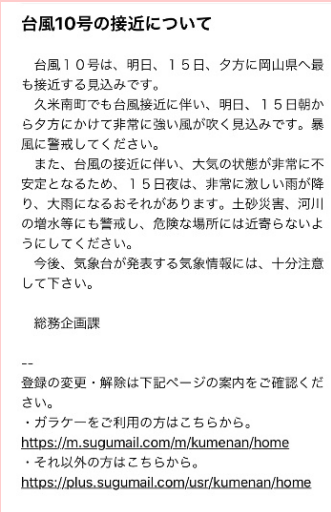
スマートフォン
用QRコード



LINE配信
イメージ



E-mail配信
イメージ



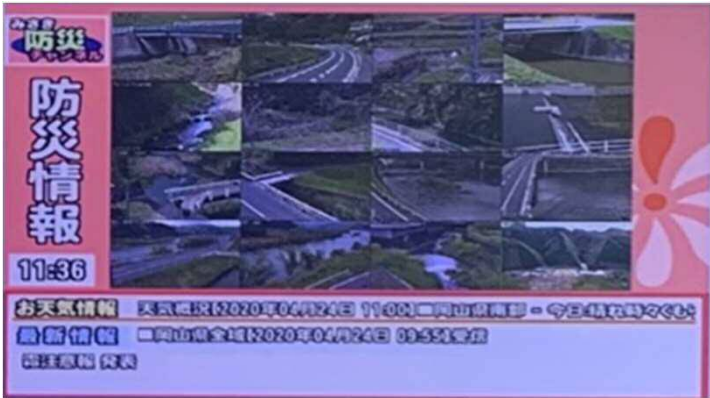
■円滑な避難行動や水防活動を支援するため、簡易水位計や量水標、CCTVカメラの設置

河川カメラ更新について

【目的】
河川の内水氾濫や避難経路の確認等の目視により確認し、異常気象時の避難判断のための
情報提供を行い、早めの避難を促すため。

【カメラ仕様】
・最大解像度 1920×1080(フルHD) ・メガピクセル光学30倍オートフォーカス
・総画素数 241万画像 ・有効画素数 237万画素数
・可動範囲 水平360°

みさきTVライブ映像



○美咲町HP ○スマホでの情報提供

設置イメージ



- ・美咲町カメラ設置一覧
 - ・カメラ更新・・・12カ所
 - ・カメラ新設・・・ 8カ所
- (内 河川監視カメラ・・・ 15カ所)

合計: 20箇所



■避難行動や水防活動を支援するための水防資機材等の配備

【目的】

災害時等に消防団員が行う避難行動支援や水防活動を安全に実施できるように、視認性の高い活動服及び雨合羽を全消防団員に配備した。

【特徴】

- ストレッチ性を確保し動きやすさを図った。
- オレンジ色及び反射材を用い視認性を向上した。
- 全団員(510人分)に支給することで迅速な対応が可能。
- デザイン性を考慮し消防団員の士気の高揚を図った。

<活動服>



<雨合羽>

